



Press Information

VPR06-019

2006年5月11日(木)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

「TSI」エンジン、“Best New Engine of 2006”を受賞

TSIは「高出力&低燃費」を約束

2006年5月10日ウォルフスブルグ発:

フォルクスワーゲンのコンプレッサーとターボチャージャーによる1.4L 125 kW (170 PS) ツインチャージャーエンジンが、“International Engine of the Year Awards 2006”でダブル受賞。1.0L - 1.4L クラス受賞および、“Best New Engine of 2006”に選ばれました。

TSIエンジンは、低回転域を担うコンプレッサーと中高回転域を担うターボチャージャーを革新的なコンセプトで組み合わせ、ダウンサイジングに成功しています。この両過給機の優れた役割分担は、高出力(125 kW/ 170 PS)と低燃費(7.2L/100km = 13.9km/1L)の両立が物語っています。欧州では、今年第1四半期より、ゴルフGT^{*1}に搭載、発売されました。

^{*1} 日本仕様の「ゴルフGT(2.0L)」とは別モデル。

“International Engine of the Year Awards 2006”の審査委員会は29ヶ国、61名のモータージャーナリストから構成されています。本アワードはイギリスの最大手自動車技術専門出版社から授与されます。

下記はTSIエンジンに対する審査員のコメントのいくつかです。

- 「このような”ハイブリッド“は、今後10年間の方向性を暗示している。ターボやコンプレッサーの分野には、更なる開発の余地があるだろう。しかし、今回のTSIエンジンは、今後の様々な開発の道を切り拓いた第一弾でありながら、現時点では、新型エンジンとして最も優れている選択肢であるに違いない」(マツ デービス、フリーランサー、イタリア)
- 「フォルクスワーゲンのTSIは排気量に対する出力、そして技術的な興味深さという点でも群を抜いている」
(ジム ケンゼー、フリーランサー、カナダ)
- 「小排気量で軽快な直列4気筒エンジン、コンプレッサーとターボチャージャーのつながりをまったく感じさせない制御の融合は、エレガント・テクノロジーそのものである」
(山口 京一、フリーランサー、ジャパン)
- 「フォルクスワーゲンは、今まで別物とされていた、2つの過給機を組み合わせる見事な可能性を示した」
(ガーボル セーチャーニ、オート2、ハンガリー)

この1.4L TSIエンジンは、すでに2車種に搭載されています。ゴルフGTに搭載されている125 kW/ 170 PS 1.4L TSIが100km走行するのに消費する燃料(Super Plus^{*2})は7.2リットル(13.9 km/1L)。郊外走行の場合は、さらに5.9L/100km (=16.95 km/1L)まで改善されます。ドイツ国内では、TSIエンジンを積むゴルフGTは、22,500ユーロからラインアップされています。また、トゥーラン^{*3}に搭載されている103 kW/ 140 PS仕様の1.4L TSIの場合は、7.5 L/100km (=13.3km/1L) (郊外走行:6.2 L/100 km = 16.1 km/1L)という燃費を達成しており、22,590ユーロから提供されています。

^{*2} 低硫黄ハイオク、98や99 RON ^{*3} 日本での商品名:「ゴルフ トゥーラン」

今回の受賞は、TSIにとって3つ目となります。昨秋、フォルクスワーゲンは、米国「ポピュラーサイエンス」誌の新製品賞、そして、今春にはドイツ自動車雑誌「アウトモーター ウント シュポルト」による「パウルピーチュ プライス」を受賞しました。

- 本件関連の広報写真については www.volkswagen-media-services.com をご参照ください。

ユーザーID: mai001、パスワード: v54w68、有効期限: 5月20日